



部長 菅原千穂さん

インタビュー

吹奏楽部に入部したきっかけは、友

人がマーチングで奏でていたユーフォニアムの音色を聴いたことでした。柔らかい音から力強い音まで、幅広く奏でられるところに魅力を感じました。合奏で主旋律をいく花形の楽器ではありませ

んが、全体を支える大切な役割をもっています。県コンクールで金賞を取り、東海大会出場を目標に練習に励みました。先輩の音を聞き、口の形をよく見て、吹き方を練習。自宅にマウスピースを持ち帰り、早く追いつこうと必死でした。

私たちのモットーは、「地域の皆さんから愛される糸中ブラスバンド」です。自分たちが楽しんで取り組めると、その明るい雰囲気は音色に出ます。部長を任されてからは「先輩から受け継いだ『あいさつ、返事、礼儀』を徹底していました。休日部活の見守りや楽器の搬入・搬出をサポートしてくれた保護者、指導してくださった講師の方への感謝を、まずは自分の姿で示すことを意識しました。

この夏、コンクールが中止になり、何

を目標にしたらよいのか分からなくなつたとき、上谷紗里奈さんがか

けてくれた言葉が心に響きました。「後輩がコンクールに出られるようになつたときのために、今できることを伝えよう」

気持の整理をつけ、技術面はもちろん、あいさつ、返事、礼儀を基礎から教えることにしました。

そして念願叶い、開催決定した9月卒業コンサート。今までお世話になつた保護者・先生を前に、最後のステージに立ちました。曲は各グループでのアンサンブル曲と「ファンファーレと歓喜」です。どれも思い入れのある曲です。みんなで演奏できる最後と思うと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。演奏後にかけてもらった「ありがとう」が今も心に残っています。吹奏楽を通して、人の役に立てる喜びを知りました。



▶ 糸貫中学校 吹奏楽部

届け、感謝の音色

県コンクール金賞を目指し掲げ、練習に励む糸貫中学校吹奏楽部。「地域に愛される糸中ブラスバンド」をモットーに、地元行事での演奏にも全力を注ぎました。コロナ禍で軒並みコンクールが中止になった2020年。念願叶って実現した最後のステージは—。

